

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	運動器・体幹	
科目基礎情報					
開設学科	柔道整復科	コース名		開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	教科書は「解剖学」を持参する。その項目ごとに資料を配布する。分離骨模型を教材室から準備する。				
担当教員情報					
担当教員	小西 裕司	実務経験の有無・職種	有・柔道整復師		
学習目的					
<p>取得を目指す柔道整復師免許が医療資格であることを理解し、資格取得後に患者の患部へ施術をすることを業務とするため人体の構造と機能を熟知する必要がある。なぜなら解剖学は、医療を志す学生にとっては基本的な学問であり、とりわけ柔道整復師には最も重要な科目だからである。体幹を構成する骨の細部について学ぶことで柔道整復術の有効性を理解し、外傷・障害への手当てを担う専門家として国民の健康保持に寄与することができる人材を育成するための学びがこの授業のねらいである。</p>					
到達目標					
<p>解剖学をはじめて学ぶ学生のために、授業は体幹を構成する骨・関節・靭帯が身体の中のどの位置にあるかを理解し、それらの関連を整理・配列し、各形態・構造および機能を把握していくことで進行していく。人体の構造と機能が立体的に把握できるようになる。この科目を学ぶことで、体幹の骨の構成・名称・特徴・数・構成する関節などを理解・習得することで、次年度に学ぶ骨折・脱臼・軟部組織損傷などの運動器の外傷における知識を身につけるための土台が形成されることを目標としている。</p>					
教育方法等					
授業概要	教科書を中心としつつ骨模型を用いながら立体的な理解を深めることを意識して授業を進める。前回までの知識の確認を個々の学生へ質問形式で実施する中で、学生自身が将来必要とされる患者への説明技術を向上させることによりinformed consentの能力を育成する。				
注意点	国民の健康に寄与する医療人の育成であることを重視する。全授業の出席を原則とする。正当な理由なき欠席・遅刻・早退は認めない。また、授業中の態度（私語・飲食・居眠り）には厳しく対応する。常に医療現場にて患者に適切な応対ができるマナーを身につけるような心掛けを求める。なお、授業時数の4分の1以上欠席した者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	0%			
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	脊柱（役割と構成）	脊柱が果たす3つの役割と構成する骨の名称・数を理解する			
2回	椎骨の基本的構造	椎骨にみられる4種7個の突起と2種4個の切痕を理解する			
3回	頸椎（環椎の特徴）	全頸椎共通の特徴と第1頸椎固有の特徴を理解する			
4回	頸椎（軸椎～隆椎の特徴）	第2～第7頸椎固有の特徴を理解する			
5回	胸椎 腰椎	胸椎固有の特徴と腰椎固有の突起について理解する			
6回	仙骨（上端・下端・側面の特徴）	仙骨固有の特徴を理解する			
7回	腰仙移行椎 尾骨 脊柱の生理的彎曲	異常な腰椎や仙骨について、また尾骨の構造や脊柱の生理的彎曲について理解する			
8回	前期7週までの振り返りと確認演習	脊柱の全体像から詳細についての知識が蓄積されているか確認する			
9回	脊柱の連結（椎間円板・靭帯・関節）	脊柱を支持する主な6靭帯や椎間円板・椎間関節について理解する			
10回	脊柱と頭蓋骨との連結（環軸関節など）	頭蓋と環椎・軸椎の連結の詳細について理解する			
11回	胸郭（構成する骨）胸骨の分類	胸郭を構成する骨の名称と数ならびに胸骨の3区分について理解する			
12回	肋骨（各分類と特徴）	肋骨全体の分類ならびに各部の分類について理解する			
13回	胸郭の連結（胸肋関節と肋椎関節）	胸郭を構成する骨による個々の連結について理解する			
14回	前期13週までの振り返りと確認演習	胸郭の全体像から詳細についての知識が蓄積されているか確認する			
15回	まとめ	半期で取得した知識の確認			